



10月も中盤を迎えます。街路樹のナナカマドの実も赤く色づき、木々の葉も秋色へ…
藻岩山を眺めれば、緑の中に赤や黄色が混じりはじめ、札幌の秋が一段と深まってきた
ことを感じます。

子ども達も、身近な季節の変化に興味深々…つい先日まで「暑いね!」と話していた
のが嘘のようです(笑)

短い札幌の秋ですが、だからこそ味わえる色や匂い、風の心地良さがあります。子ども達
と一緒に移り行く季節を感じながら、秋ならではの毎日を楽しみたいと思います。

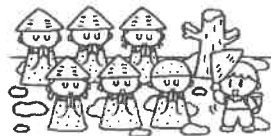


=ATTENTION=

前号でもお知らせしておりますが、個人懇談日は
午前保育です。降園時間が2時間30分早くなり
ます。お間違いないようご注意ください。

休園日のお知らせ

10月30日(金)は令和9年度
新入園児「入園手続き」のため休
園日です。



●年長児ドッチボール大会●

10月20日(火)は年長児の「ドッチボール大会」です。

ドッチボールの魅力は、何と言ってもスピード感と勝負の面白さ!

ボールを投げる、受ける、逃げる、そして仲間へ声をかける…

一瞬一瞬の判断の中に、子ども達の成長がたくさん詰まっています。

運動会とは一味違う、勝負に賭ける子ども達の表情も、この大会の
大きな見どころです。

各クラスをさらに2チームに分け、トーナメント方式で優勝を目指
します。勝って大喜びする姿、負けて悔し涙を流す姿も見られるか
もしれません。

その一つひとつが、年長児だからこそ経験できる大切な「育ち」の
時間です。

開催日時や観戦方法などの詳細は、すでに配信している「おうち園」
のクラスだよりをご確認ください。

今年の優勝チームはどこになるのか?! 熱い戦いを、どうぞお楽し
みに!



「怒る」と「叱る」は違いますよ!

最近、子育てに関する情報を SNS など目にする機会が本当に増えました。「子どもの気持ちを尊重しましょう」「怒ら
ない子育てをしましょう」「その言葉掛け、不適切です!」…もちろん、子どもの人格を否定したり、大人の感情をぶつ
けたり、力で従わせたりすることは決して望ましいことではありません。子どもも一人の人間として尊重される存在です。
しかし一方で、私達は「怒らない」という言葉が、いつの間にか「叱らない」「注意しない」「我慢させない」という意味
にすり替わってはいないだろうか?と考えることがあります。

子どもの気持ちを大切にすることと、子どもの言う通りにすることは同じではありません。

私達大人には、子どもがこれから社会の中で生きていくために、「してよいこと」と「してはいけないこと」を伝える責任
があります。私は「怒る」と「叱る」は分けて考えたいと思っています。「怒る」のは、大人の感情を子どもにぶつけるこ
とで、「叱る」のは、子どものこれからのために大切なことを伝えることです。

ですから、叱ることそのものを怖がる必要はありません。大切なのは、「何のために伝えるのか」「どのように伝えるのか」
です。

例えば、こんな時には大人がきちんと立ち止まらせる必要がありますよ!

* 何度伝えても同じ危険なことを繰り返すとき * 食べ物や物を粗末に扱ったとき * 自分がやるべきことから逃げ、誤魔
化そうとしたとき * 友達や家族との約束を守るうとしなかったとき * 「自分さえよければいい」と、相手の気持ちを考
えられなくなったとき * 腹が立った、悔しかったという気持ちを、叩く・蹴る・傷つく言葉などで相手にぶつけたとき
* 年下の子や困っている人を馬鹿にしたり、弱い立場の人を粗末に扱ったとき * 道路への飛び出しなど、自分や誰かの
命を危険にさらす行動をしたとき * 「できない」のではなく、「面倒だからやらない」と最初から投げ出そうとしたとき
… etc

子どもは最初から、我慢することも、気持ちを切り替えることも、相手を思いやることも上手にできるわけではありません。
子どもの気持ちは受け止めながら、行動にはきちんと線を引き…これは大人の大切な役割だと思っています。

子どもにとって「我慢する」という経験も大切です。ただ我慢させるものではありません。思い通りにならなかった経験を
乗り越えることで、少しずつ自分の気持ちを整える力が育っていきます。

幼稚園も同じです。子どもの主体性を大切にすることと、何でも自由にさせることは違います。特に集団生活では、友達
の安全を守るための約束、みんなが気持ちよく生活するためのルールがあります。

家庭には家庭の考え方があります。それを私達は大切にします。しかし幼稚園には、たくさんの子どもと一緒に生活する
場所として守らなければならない約束があります。命や安全に関わる時、誰かを傷つけた時、集団生活のルールを大きく
外れた時には、教師が毅然と「それはいけない」と伝えることも必要です。それは子どもを押さえつけるためではありません。
子どもを守り、友達を守り、その子自身がこれから社会の中で生きていく力を育てるためです。

子育ての中心にいるのは、やはりお父さん、お母さんをはじめとするご家族です。そして幼稚園は、家庭に代わる存在で
はなく、家庭と一緒に子どもの成長を支えるパートナーです。

SNS には、たくさんの子育て情報があふれています。参考になるものもたくさんあります。しかし、十数秒の動画の中に、その
子の発達も、その時の状況も、そこに至るまでの関わりもすべて映っているわけではありません。だからこそ、情報をそ
のまま「正解」にするのではなく、目の前の我が子を見て考えてほしいと思います。

家庭と幼稚園がこの考えを共有しながら、子ども達の「自分で考え、自分を整え、人と一緒に生きていく力」を育ててい
きたいと思っています。